

第2回新潟カップバスケットボール大会

兼国民体育大会 成年男子・女子新潟県代表選手選考会

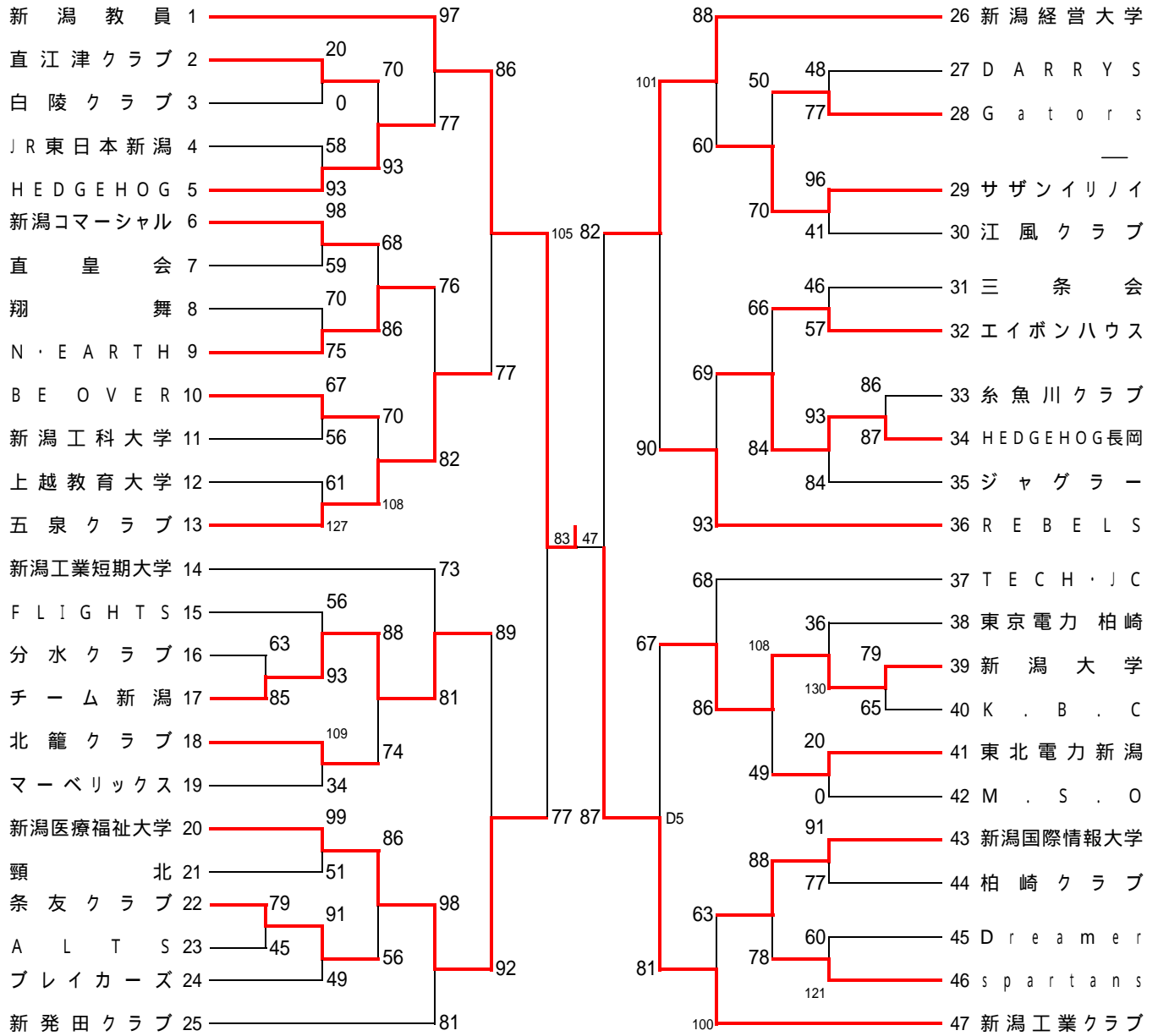
平成17年5月7日～15日

三条市総合体育館 他

男子の部

決勝

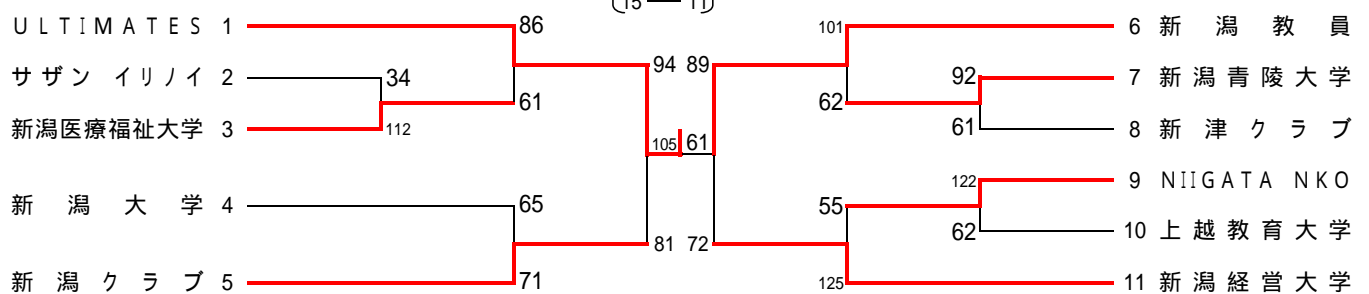
新潟県教員 83
 新潟工業クラブ 47



女子の部

決勝

ULTIMATES 105
 新潟県教員 61



男子決勝戦結果

新潟教員 83 $\left(\begin{array}{l} 16 - 13 \\ 17 - 18 \\ 28 - 5 \\ 22 - 11 \end{array} \right)$ 47 新潟工業クラブ

テーブルスコア

A 新潟教員		得点	野投(本)		自由投 (本)	反 則	B 新潟工業クラブ		得点	野投(本)		自由投 (本)	反 則
No	選手名		3点	2点			No	選手名		3点	2点		
	信田	5	1	1	0	1		斉藤	5	0	2	1	2
5	湯浅	2	0	0	2	0	5	村木(和)					
	関川	12	0	6	0	1		長谷川	0	0	0	0	2
7	島	0	0	0	0	1	7	村木(孝)					
8	大脇	1	0	0	1	0		真保	5	0	2	1	1
9	猪又	3	1	0	0	1	9	樋口	0	0	0	0	2
	小山	17	4	2	1	2	10	市川	4	0	1	2	1
11	高橋						11	和田	4	0	2	0	1
	岩崎	16	0	8	0	2		内藤	15	3	2	2	1
13	北	5	0	2	1	2	13	伊藤(順)	4	0	2	0	1
14	品田	8	0	3	2	0	14	伊藤(豪)	0	0	0	0	0
	藤田	4	0	2	0	0	15	村上	0	0	0	0	1
16	神田	2	0	1	0	1	16	中村					
17	山口	8	0	4	0	1		大坂	2	0	1	0	2
18	前田	0	0	0	0	1	18	葛綿	8	0	3	2	3
合計		83	6	29	7	13	合計		47	3	15	8	17

戦評

第2回新潟カップ成年男子決勝は、準決勝で新潟医療福祉大に完勝した第1シード新潟教員と、新潟経営大に辛勝した第2シード新潟工業クラブの対戦となった。

立ち上がり新潟教員、新潟工業クラブともにマンツーマンディフェンスでスタート。新潟教員は固いディフェンスから速攻で加点するが、アウトサイドシュートがなかなか入らない。対する新潟工業クラブは内藤の3Pなどで加点するが、お互いに互角の展開で、このピリオドは16 - 14、新潟教員の2点リードで終る。第2ピリオド、新潟工業クラブはディフェンスをゾーンに変える新潟教員はしばらく得点が伸びず、新潟工業クラブが一時逆転するが、新潟教員は徐々に速攻で加点し、このピリオドは17 - 17。前半で33 - 31の新潟教員2点リード。第3ピリオドに入り、新潟工業クラブはディフェンスをマンツーマンに戻すが、ディフェンスの足が止まったところを新潟教員は岩崎を中心に加点し徐々に引き離しにかかる。残り5分で新潟工業クラブはディフェンスをゾーンに変えるが、新潟教員の勢いは衰えず小山の3P等で加点、このピリオドを28 - 5とし、勝負を決めた。第4ピリオドも体力、走力に勝る新潟教員有利で進み、最終的に83 - 47で昨年に引き続き優勝を決めた。

**第2回 新潟カップバスケットボール大会
女子決勝戦結果**

ULTIMATES 105 $\left(\begin{matrix} 28 & - & 21 \\ 28 & - & 14 \\ 34 & - & 15 \\ 15 & - & 11 \end{matrix} \right)$ 61 新潟教員

テーブルスコア

A ULTIMATES					B 新潟教員								
No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則	No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則
			3点	2点						3点	2点		
	高岡	17	0	8	1	1		竹田	10	1	3	1	2
5							5	佐々木					
6	佐藤	0	0	0	0	0	6	藤田	4	0	2	0	2
7	高橋	10	0	5	0	2	7	渡辺					
	田中	7	1	2	0	3		小林	3	0	1	1	3
	田辺	8	0	4	0	4	9	五十嵐					
10								石田	8	0	4	0	3
11								谷内田	18	0	8	2	4
12	江川	0	0	0	0		12	樋浦	0	0	0	0	0
13	斉藤	3	1	0	0	3	13	高津					
14								斉藤	16	1	6	1	1
	宇治	46	6	9	10	2	15	相場	2	0	1	0	1
16	村田						16	野口					
	長澤	14	2	2	4	0	17	滝谷					
18							18	渋谷	0	0	0	0	2
合計		105	10	30	15	15	合計		61	2	25	5	18

戦評

女子決勝は昨年に続き、ULTIMATES(以下ULTI)と新潟教員(以下教員)の顔合わせとなった。昨年度はULTIが4点差で教員を下したが今年はどうか、注目の一戦となった。

立ち上がりは両チームともハーフマンツーマン。ULTIは 田中(樹)を中心に速攻を仕掛け、教員は 石田を軸にセットプレーからの得点を目指す。双方ともチームの特色を活かし互角の展開と思われたが、第1P. 残り2分というところで教員の要である 石田がファウルトラブルでベンチに退くと、流れは一気にULTIに傾き始める。第2P. に入るとULTIは 宇治を軸に果敢に1対1を仕掛け、着実に加点し、突き放しにかかる。対する教員は、 竹田の3P、 谷内田のゴール下などで対抗するが、堅いディフェンスに阻まれて得点が伸びない。ULTIはスピード・運動量とも教員を圧倒し、56 - 35として前半が終了した。

後半に入ってもULTIは攻撃の手を休めない。速攻を軸に早いバスケットを展開。インサイド・アウトサイドともにバランスよく攻め続け、教員に付け入る隙を与えない。ULTIはベンチメンバーを使う余裕を見せ、終わってみれば105 - 61と教員に圧勝。昨年に引き続いての優勝を飾った。